

2020年1月期に小型沖曳網で採捕したアユの 推定ふ化日組成

亀甲武志・太田滋規・松田直往

1. 目的

冬季のアユは集群性が弱く、魚群探知機による調査によっても資源状況を十分に把握しきれしていない可能性が指摘されている。このため1月に北湖の複数の地点において小型沖曳網によってアユの採捕を試みたところ、多数のアユが採捕できた。2018年と2019年に採捕されたアユの体長を比較したところ、2019年のアユは2018年よりも小さい傾向がみられた。そこで、採捕された個体のふ化日を推定し、2018年、2019年と比較を行った。

2. 方法

2020年1月22日に琵琶湖北湖の4水域（知内（水深12.4m）、萩の浜（水深10.4m）、中主（水深10.6m）、彦根（水深12.0m））で小型沖曳網により採捕調査を実施した。採捕したアユは、体長を測定したのうち、耳石を取り出し、その日周輪から、ふ化日を推定した。

3. 結果

2020年に採捕されたアユの体長は22.9～31.3mmであった。一方、2019年に採捕されたアユの体長は28.5～31.1mmであり、2018年は31.2～39.9mmであったことから2020年はやや体長が小さい傾向があった。

採捕したアユの推定ふ化日は、9月21日～11月19日までの期間にわたった。10月中旬から下旬にふ化している個体が多かった。推定されたふ化日のうち10月生まれが8割以上を占めていた（図1）。2017、2018年度に推定されたふ化についても約9割が10月生まれであったことから、ふ化日の組成は3年間で大きな違いがないと考えられた。

1月に実施する小型沖曳網による標本採集は10月生まれのアユを採捕する手段として適していると考えられた。また2020年に採捕されたアユの体長が2018、2019年よりも小型の傾向にあったのは、採捕時までの成長が悪かった可能性が考えられた。

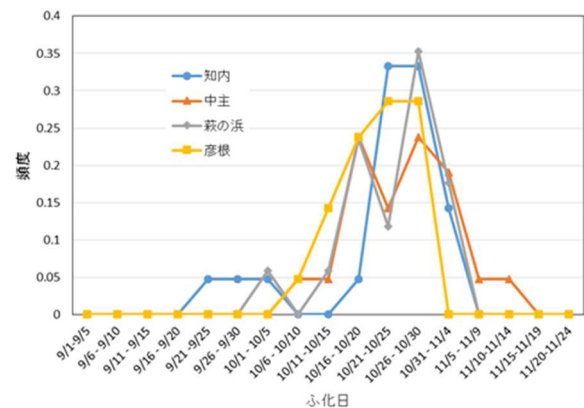


図1 採捕したアユのふ化日組成